

くまもと経済

12 2021
月号

VOL.486



創刊50周年記念号

創刊 50 周年記念特別座談会 持続的発展へ ~トップが語る新しい KUMAMOTO のカタチ~

感染対策と経済再建の両立追求を

特集 拡大するDX「負担軽減」「売上増」に効果

グラビア 熊本と、ともに ~本誌で見るくまもとの50年~

感染対策と経済

鍵はDX、SDGs



▲県経済の浮揚策や成長戦略を話し合った「くまもと経済創刊50周年記念特別座談会」(11月1日)

[出席者] 蒲島 郁夫 熊本県知事
久我 彰登 熊本商工会議所会頭(鶴屋百貨店会長)
平田 雄一郎 熊本経済同友会代表幹事(平田機工社長)
中山 峰男 崇城大学学長
永里 敏秋 KMバイオロジクス社長

[会場] 熊本ホテルキャッスル 11階「トゥールドシャトー」

再建の両立追求を

県「5つの安全保障」を成長戦略に



人口減少社会の進展で縮小均衡へ向かう地方経済。その時代潮流の中で県経済は、熊本地震、豪雨災害、新型コロナ禍のトリプルパンチ(三重苦)に見舞われ、今、大きな転換期を迎えている。特に長期化するコロナ禍においては、ウィズコロナに基づく感染防止対策と経済再建の両立による成長戦略が求められ、その鍵となるのがDX(デジタルトランスフォーメーション)やSDGs(持続可能な開発目標)の推進である。創刊50周年を迎えた本誌は、「持続的発展へ〜トップが語る新しいKUMAMOTOのカタチ〜」をテーマに、熊本の地域力を再認識し、次世代に向けた成長戦略を多方面から描く特別座談会を開催。各界トップに県経済の現状と課題、浮揚策について語り合ってもらった。(11月1日開催、司会/本誌会長・松岡泰輔、文・構成/編集部・甲木昌宏)

種がリモート化に移行できる訳ではあり
ません。感染症対策と合わせてコロナ禍
で停滞した経済再建を図り、技術開発投
資による生産性向上の取り組みも求めら

「全学生にデータサイエンス授業」(中山)

企業規模拡大し理工系学生の受け皿に

―ウイズコロナに対応した大学教育の
在り方も大きく変化していますが、崇城
大学の中山学長は県経済の現状と課題を
どのように捉えられていますか。

中山 県経済の現状は、やはりコロナ
の感染拡大とともに停滞感が漂っている
と感じており、熊本が発展していくため
にはこの停滞感、閉塞感を打破しなけれ
ばならないと思っています。平田代表幹
事が先ほど述べられた通り、今後もコロ

れています。熊本経済同友会として、
今後どのように会員企業を支援していけ
ば良いか対応に苦慮しているのが現状で
す。

ナ禍によってDX化が浸透していくでし
よう。これは熊本の企業においても同様
で、デジタル技術を活用し、生産性向上
を図ることが望まれます。

当然、大学教育においてもデジタル化
の波は加速しています。本学ではデジタ
ル教育を浸透させるため、データサイエ
ンス授業を全学生に受講させるべく、準
備を進めています。いわゆる情報系の学
生でなくても、デジタル技術を活用し、



中山 峰男
崇城大学学長

なかやま みねお/熊本市出身、1947(昭和22)年
9月22日生まれ、74歳。熊本大学工学部卒。71
年積水化学工業入社。80年4月学校法人君が淵学
園入職。97年法人局長、2003年理事を経て、同年
12月君が淵学園理事長、崇城大学学長、学校法人
文徳学園理事長就任

課題解決ができる人材育成をすることが
目的です。

ただ、残念ながらそうした学生を育成
しても、卒業後に熊本に残るかという話
しになると、また別の課題が浮かび上が
ります。本学では県内で就職する学生の
割合はわずかに3割未満です。私はこの数
字を5割程度まで引き上げ、何とか熊本
に残って欲しいと願っているのですが、
なかなか難しい問題です。その要因の一
つとして、理工系学生の就職先として県
内企業の受け入れ先が少なく、雇用の場
が限られていることが挙げられます。

蒲島知事が冒頭で述べられていました
が、熊本は震災後、創造的復興を果たし
ました。私はこうした創造的復興の恩恵
を受ける形で県内企業が成長し、企業規
模を拡大しながら学生の受け皿になっ
ていくことが大切だと考えています。つま
り、熊本の企業がそれぞれ発展し、新た
な社会をつくり出す若い人材を採用する
ことで未来社会においてもしっかりと貢
献できる企業に成長することが必要なの
です。

いつかはコロナも終息します。しかし、
ただ終息を待つだけではいけません。「逆
境の中にこそ夢がある」ではありません
が、コロナ禍で一番厳しい今だからこそ、
熊本の企業が次の発展を見出せるよう計
画し、力を蓄えていくことが大切だと考
えています。

デジタル技術駆使した「EdTech」導入

エドテック

―続いて中山学長に伺います。崇城大学においてもオンライン授業などDX投資を積極的に進められているとお聞きしていますが、現在の状況はいかがですか。

中山 大学の現状としては、コロナ禍において遠隔でのオンライン授業を主体的に行ってきました。その結果、残念ながら対面授業を行っていた2019年当時の学生の成績と比較すると、現在の遠隔授業での成績は下がってしまいました。

私は、教育とは単に知識を授けることではなく、一人一人の学生が社会に出て、主体的に課題解決する力を身に付けさせることだと考えています。そういった意味では、どうしても切磋琢磨する場が必要であり、また学生も色々な人たちと出会って、感化させられることが大切です。やはり遠隔授業だけでは、そういった部分がなかなか達成できなかったため、自身の反省点でもあります。

しかし、遠隔授業、いわゆるオンデマ

ンドというものは、学生が何度も視聴でき、空いている時間に学習ができるといった良い側面もあります。そういった部分ではコロナ禍において、教育の一つの技術として身に着いたことであり、将来的に役に立つものだと考えています。これからは、そのようなデジタル技術を駆使し、教育とテクノロジーを組み合わせた「EdTech(エドテック)」を本学でも導入しながら、学生一人一人をしつかりと育成できるようにしていきたいと思っています。

「給与アップへ生産性向上を」

また、停滞する県経済の現状を解決するためには、岸田首相が公約として打ち出されている「所得倍増計画」が鍵になると考えています。経済の指標はGDP(国内総生産)ですが、GDPの中で最も大きな割合を占めるのが「消費」です。この「消費」の値は、主に労働人口×所得で計算さ

未来をつくるのは新しい価値観の若者(中山)

企業単位で若い人材が活躍できる社会構築を

—大学経営においては人口減少という難しい課題があると思いますが、中山学長はどのようにお考えですか。

中山 平田代表幹事が述べられた通り、これからSDGsの取り組みが社会全体において非常に重要になっていくと思います。また、世間の価値観というののも、これからの10年間でさらに様変わりしていくのではないのでしょうか。

明治維新がなされたのも、いわゆる江戸時代の価値観に慣らされていない、つまりは江戸時代の価値観を持っていない20歳前後の若者たちが新たな社会の構築に挑戦したからだと言われています。そういった意味では、これから新しい社会をつくっていくのは、新しい価値観を持った若者たちなのではないでしょうか。

現在、小学校において、ようやく教育現場に1人1台のタブレットが配布されるようになりました。小学校の校長先生に聞くと、児童が簡単なプログラムを活

用しながらモノを動かしたり描いたり、また、タブレットを使って自発的に課題解決にも取り組んでいるというのです。きっと彼らは数年後、デジタルネイティブとして大学に入学するでしょう。大学においても、そうしたデジタルネ



▲崇城大学では教育とテクノロジーを組み合わせた「EdTech(エドテック)」を導入。デジタル技術を活用して課題解決ができる人材を育成している(写真・同大学提供)

イティブの学生を受け入れるため、デジタル環境を駆使した「eーキャンパス」づくりを進めています。先ほど述べたEdTech(エドテック)についても、システムを構築し、学生のための教育拡張ができるようにと考えています。

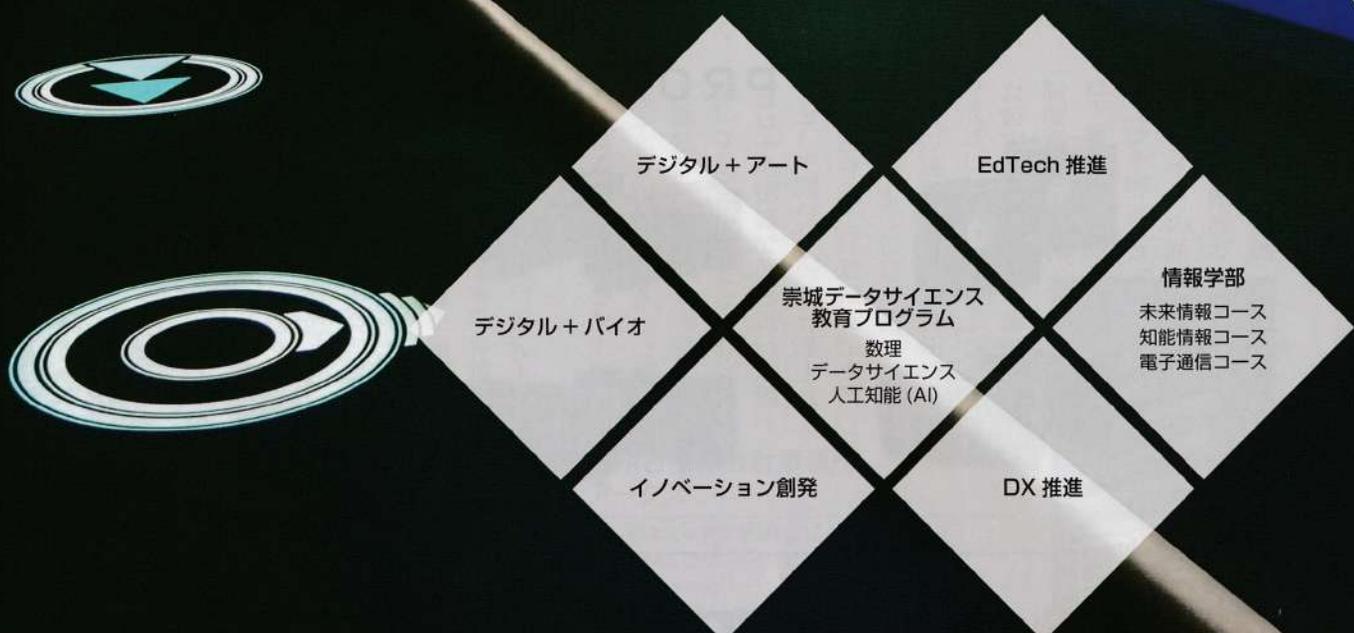
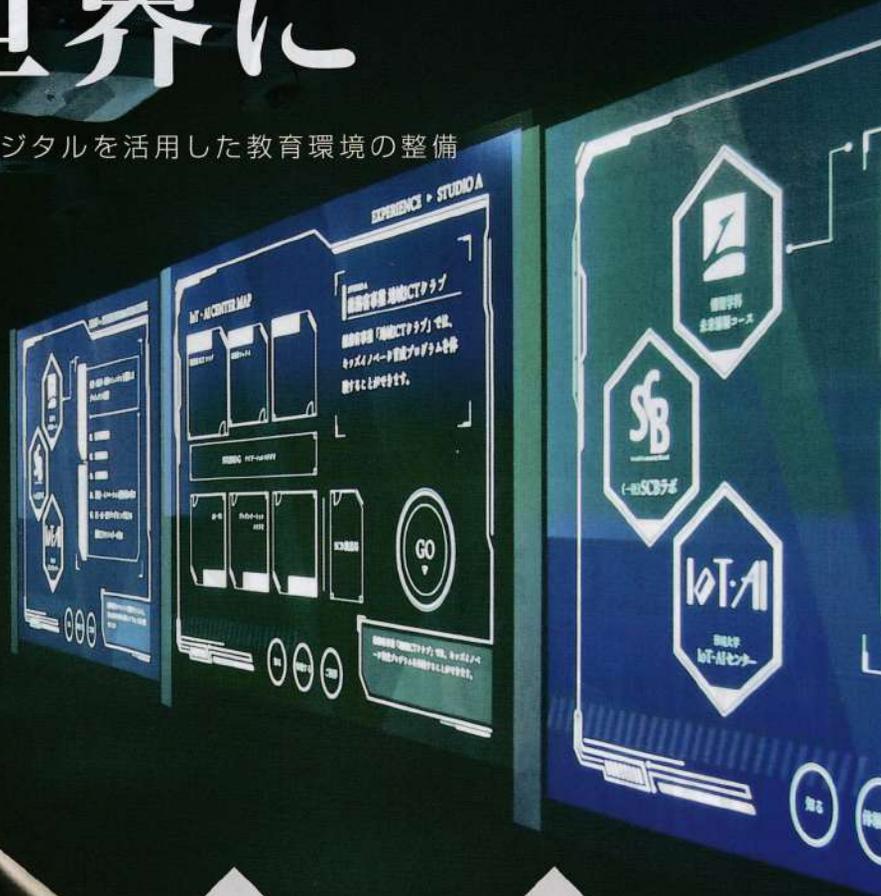
今後、IT(情報技術)、BT(バイオ技術)、NT(ナノ技術)が最先端技術として社会の変革に貢献し、未来社会を構築していくだろうと言われています。そして、その技術を率先的に活用するのが若い人たちです。

今はまだ、日本中の大学がそういった新しい価値観を持った若者を育成している最中ですが、今後は企業側においてもその受け皿をしっかりとつくっていくかなければなりません。そのために大学と企業の産大接続を改めて再構築し、企業側の新しい価値観の醸成に寄与できればと考えています。つまり、地域で若い人が活躍し、そして熊本における新しい価値観の社会を構築していくというスキームを、企業単位でどんどん実践していただくことが必要だと考えています。

そういった意味では、新しい価値観、引いては未来をつくっていく人材を育成する点において、本学のような大学が今後果たしていく役割は大きく、また非常に責任のあることです。今後もそのような素晴らしい若者をしっかりと育成していきたいと思っています。

未来に羽ばたく 人材を世界に

未来社会のニーズに応える人材育成とデジタルを活用した教育環境の整備



写真：崇城大学 IoT・AIセンター

 **崇城大学** SOJO UNIVERSITY 薬学部 生物生命学部 工学部 情報学部 芸術学部
〒860-0082 熊本市西区池田4-22-1 TEL:096-326-3111

IoT・AIセンターを
リトアニア大使が視察

崇城大学（熊本市西区
池田4丁目、中山峰男学
長）IoT・AIセンタ
ー（センター長・星合隆
成情報学部教授）を9月
2日、リトアニア共和国
特命全権大使のゲディミ
ナス・バルブオリス氏が
視察した。

当日は、プロモーション
ビデオを使った崇城大
学IoT・AIセンター
のコンセプト、施設の概
要を紹介したのち、ナビ
ゲーションスタジオ、プ
レゼンテーションスタッ
ジオ、放送スタジオなど
を見学。

今年4月のオープン以
来、大手通信キャリア、
IT企業、自治体、学会、
大学関係ほかメディアな
ど、同センターを視察し
た企業・団体は既に30を
超える。